第 314 回 昭和の森自然観察会

森のひみつ

梅宮玲子（市原市）

日　時：2018 年 2 月 11 日（日）13～15 時　　天気：晴れ
参加者：34 名（大人 26 名、子ども 8 名）、指導員 8 名
担当指導員：佐野由輝・梅宮玲子

冬期平昌オリンピックの開催と、3 連休の中日。前日の天気予報は雨天 90%、いったい自然観察会にどのくらい参加してくれるのかなぁ？と、若干不安を感じていましたが、当日はよく晴れて、参加者に恵まれました。

最初に太陽の広場に移動して大きなシラカシの木の高さや幹周りをいろいろな方法で測りました。そして、世界一大きな幹周りの樹木の面積を想像するために、58mの長さの黄色いスズランテープを参加者全員でもち、大きな輪をつくりその大きさを感じることができました。次に芝生の斜面が雨で洗われて、表土が露出したガリを観察してから、杉林に移動しました。限られたスペースの杉の本数を数えて日本人一人あたりの二酸化炭素排出量と樹木の吸収量の関係を計算し、地球の温暖化を防ぐ森林の役割について考えました。続いて、林の中のふかふかの腐葉土を各々、竹串でさして、どのくらいの柔らかさを体感。踏み固めた道もさしてみましたが、とても硬くて無理でした。その場所の腐葉土と裸地の土をペットボトルで作った濾し器に入れ同時に同量の水をそそぎ透水実験。大雨の時に腐葉土がいかに水分を吸収して災害を未然に防いでくれるか、子どもたちにお手伝いしてもらいながら、時間をはかってみました。腐葉土の水は 4 分位で下に落ち、裸地の土は 7 分以上かかっても水が残っていました。

最後に、10m以上の高さに成長する木が梢の先まで水を吸い上げる力を体感してもらうため、子どもたちに、5m以上の高さの滑り台の上からペットボトルのカルピスをチューブで吸い上げてもらいました。何度も挑戦した子もいて、頑張っていましたが 3m位までしか吸い上げられず、ついに飲むことは出来ませんでした。

初めての参加者も多く、植物の名前を覚えられると思ってこられた方などいろいろ、いらっしゃいましたが、樹木についての様々な実験をみなさん楽しんでいたようです。